

歴史教育に学ぶ—大東亜戦争と明治維新—

森友問題で、日本では公文書をきちんと管理できていなかったことが露見された。一方、アメリカでは公文書はきちんと管理され、事件後10、20、50年を経て世にだされていく。大東亜戦争（戦後教育で「太平洋戦争」との名称になった）の発端としての真珠湾攻撃についても、多くの機密文書が50年を経て公開されてきた。加えて、フーバー元大統領の著書も世にでてきた。

私たちは、小学校や中学校では以下のように教わった。

日本軍が1941年12月にハワイの真珠湾を奇襲し、多くのアメリカ人を死亡させた。奇襲という卑劣な手段であったことから、「真珠湾を忘れるな」という言葉が生まれた。広島や長崎の原子力爆弾投下は、真珠湾での日本軍の卑劣な行為に対する当然の報いであり、それにより玉砕したかもしれない多くの日本人を救った。つまり、原子力爆弾投下は日本のためであった。

しかし、世に出てきたアメリカの公文書、フーバーの著書から、当時のフランクリン・ルーズベルト大統領が日本に奇襲するように誘導したという考え方がきわめて妥当のように思われる。ルーズベルト大統領は、「自国の若者を戦争で殺さない」との公約で大統領になったので、アメリカがヨーロッパ戦線に参戦するためには、世論を納得させる理由が必要であった。「真珠湾を忘れるな」というスローガンにより、アメリカがヨーロッパ戦線に参加する理由ができたのであった。

2001年のニューヨークでの同時多発テロで「911を忘れるな」といわれ、アフガニスタン侵攻を正当化したのも基本は同じ構造である。911に関する多くの資料をみていくと、私はこれもアメリカの自作自演のように思える。

大東亜戦争敗戦後に、戦争責任者の処分として行われた東京裁判でも、事後法など法的には問題が少なからず存在することを理解できた。そして、戦後、GHQのWGIP(War Guilt Information Program)教育が日本人に自虐的史観を植え付けていった。我々が習った大東亜戦争およびその後の歴史は、勝者であったアメリカがシナリオを書いたのであった。

同様に、しっかりしない徳川幕府を薩摩・長州などの下級武士が団結して倒して諸外国の侵入を防いだと我々が学校で教わった明治維新はどうだろうか？「維新」という言葉には、私たちにとって「古いものからの革新」とのイメージでここちよく感じる。

ほんとうに明治維新とは我々が教わったことが真実なのだろうかと多くの書籍を読みあさった。

封建社会といわれた江戸時代ではあったが、地方分権が整った比較的安泰で

あった世の中であり、そのため300年近くも続いたと思われた。ペリーの来訪からはじまり、ロシア、イギリス、フランス、アメリカなど諸外国と交渉をし、通商条約を可能としたのは徳川幕府の優秀な官僚たちであった。

長州による京都でのテロ活動、京都御所に砲弾をうちこんだ禁門の変、第一次長州征伐、第二次長州征伐や薩長同盟の詳しい資料をみていくと、学校で習った歴史では、長州・薩摩にとって都合が悪いことはすべて省かれていることがよく理解できた。戊辰戦争における長州による会津一般人に対する凄惨な殺害については記載がない。テロリストであった吉田松陰や高杉晋作は、英雄として語られている。

イギリスが、内部分裂している一方に加担してその国の独立後に影響力をもっていくという常套手段で、長州・薩摩を利用して日本の開国を促したと考えるのが妥当ではないかと思えた。

NHKの大河ドラマでは、明治維新関連の題材もの多い。しかし、その多くは史実とは異なり、現在(2018年)放送されている西郷隆盛もすばらしい人物として描かれている。国営テレビであるNHKであっても(あるがゆえに?)、それ以外の可能性を放送されたことはない。

この2つのことからわかることは、歴史は常に勝者の歴史であるということである。そして、それを後押ししているのがいつの世でもマスコミである。

教育の重要性はどこでもいわれる。最低限、読み書きができる必要はあるが、教えられたことを盲目的に信じ、時代の支配者の意向に従順となるような教育をするか、自分自身で考えることができるような教育をするべきか?自分で考える能力があれば、成人になってからの自分のまわりの情報から、いままで教わった歴史などの正当性を吟味できる。

来年は、明治維新と大東亜戦争の途中の出来事である、日清・日露戦争、や日韓併合などの背景を読みたいと思う。韓国がなぜ今頃になって徴用工補償問題を出してきたのか、慰安婦に関する背景は何かなどを理解できたらと思っている。

2017.11.15